

## NFBC 近未来研究会（略称：NF 研）の概要のご紹介

<http://www.isem.co.jp/NFken/NFkenSummary.pdf>

### 1. 研究会概要

**研究会の名称**は、「近未来研究会 Near Future Studying Group、略称：NF 研」と称します。2015 年 4 月任意団体としてスタートしましたが、2018 年 11 月以降は、一般社団法人近未来ビジネスラボ協会(NFBC)（代表理事：山田晃男、宇野澤庸弘）の発足に伴い、その傘下のワーキンググループとなっています。

**研究会の目的**は

- ・ 知的好奇心の維持、高揚：世の中で話題になっている社会的、技術的テーマを深掘りして知ること。
- ・ ビジネスへの発展：近い将来、ビジネスになりそうなテーマについて、その可能性を議論すること。

**研究会で扱うテーマ**は、

近未来における社会問題から技術的問題まで広いテーマを扱いますが、中でも**近未来の情報技術**に関するテーマに重点を置いています。例えば、

- ・ シンギュラリティ問題、人工知能 AI、機械学習、ディープラーニング（深層学習）、ロボティクス
  - ・ ビッグデータ、データマイニング、IoT、M2M、SCADA、情報セキュリティ
  - ・ ロジスティクス、SCM、車両運行管理、ファシリティマネジメント(FM)、BIM、CIM、GIS、CAD
  - ・ 仮想通貨、決済システム、ビットコイン、ブロックチェーン、フィンテック
  - ・ 情報モデリング（サイバー・フィジカル、デジタルツイン、ERP、デジタルトランスフォーメーション DX、EA、EIM、MDA、MBD）
  - ・ ビジネスモデル、ビジネスプロセスモデル、ビジネスプロセス改革（B2X、BPM、BPMN、BPR、RPA）
  - ・ ソフトウェア開発の高速化（アジャイル、ローコード、グラフィカルプログラミング、など）
  - ・ 社会問題、環境問題、地球温暖化問題、防災問題、エネルギー問題、食料問題、水問題、SDGs など
  - ・ ソフトウェア開発の高速化（アジャイル、ローコード、DevOps、グラフィカルプログラミング、など）
- その他、テーマは参加者の提案によります。必ずしも技術的テーマには限定しませんが、ビジネスに係るものに重点をおきます。また、技術の応用（応用システム）に重点をおいています。

### 2. 研究会開催頻度、場所

研究会は、ほぼ 1 ヶ月に 1 度開催しています。

開催場所は、原則として、東京タワー前の機械振興会館内会議室としています。

次回プログラム：<http://www.isem.co.jp/NFken/NFkenProgram.pdf>

### 3. 入会、退会、会費、役員

入会、退会は本人の自由意思によります。研究会への参加資格は問いません。「NF 研拡大メンバー（NFBC 準会員、会費無料）」、「NFBC 正会員（会費有料）」、その他、どちら様でも参加できます。当日参加費は、原則として無料です。

NFBC 正・準会員のなかから、2019 年度の NF 研担当幹事は宮西洋太郎としています。2020 年度の NF 研担当幹事は、(株)オービック壇明宏を予定しています。

入会ご希望のかた、退会ご希望のかたは、宮西 [miyanisi@jade.dti.ne.jp](mailto:miyanisi@jade.dti.ne.jp) までメールをお願いします。

NF 研につきましては、[NFBC NF 研ホームページ](#)、詳細内容は、[NF 研暫定ホームページ](#)をご参照ください。過去の発表テーマ、公開可能な資料、今後の予定につきましては、[資料リンク先](#)をご参照ください。